

豊かな日常に向かって

保育園で身についた習慣が、もしかすると途中で途絶えるかもしれません。

それでも何かのきっかけで、またよみがえるでしょう。

幼児期の良い習慣や経験が自尊感情を支えてくれると信じています。

1. 衣服は手アイロンで伸ばしてたたみます。子どもは手の温もりの力を知り喜びに変わります。何かをたたむ動作と一緒に手アイロンが当たり前になっていきます。
 2. 食事の時は、自分で手ふきを絞って備えます。これで大抵のハプニングは大丈夫、落ち着いて食事ができます。
 3. 食事の後は、食器の汚れを古布で拭き取って返します。作ってくれた人への感謝の気持ちと、汚れた水を下水に流さないための配慮です。
-

時代は電化生活へと進んでいますが、保育園は便利さの追求はしていません。

また、小さな事故防止の配慮まで求めた施設でもありません。

子どもの体の細かい部分が発達していくように、

大きな事故につながらないようにと注意を払う経験の場所だからです。

1. 水道の蛇口は手で回し水の加減を自分でします。固形の石けんを使って手のひらで泡立てます。
2. バリアフリーではありません。トイレや玄関は一段下げて、区別が必要な場所であることを知らせています。
3. 玄関のとびら、教室の大きなガラスの引き戸、窓やトイレのドアは建具屋さんの手仕事です。自動で開いたり閉まったりしません。指をつめないようにゆっくり動くこともありません。注意を払って加減をしながらそっと閉めています。

朝の戸外活動は社会との接点です。

交通ルールやマナーに触れること、公共施設を利用すること、
ご近所の方と言葉を交わすことも大切な日常です。

1. 子どもの事故は特に飛び出し事故が課題です。
もしかしたら車が来るかもしれないと考えて行動をする経験をします。
おとなが模範的な確認の仕方を見せることが重要だと考えています。

2. 公園を利用した後はゴミ拾いをします。
みんなが使う場所はみんなできれいにする、公共の理解につながります。

3. 雨の日も嵐でなければ出かけます。
長靴を履いてカッパをきて、いつもと違う環境がおもしろいと思える時を大事にします。
たくさんの知恵を育むチャンスです。

4. 外から帰ったら泥除けで靴の裏を拭い、玄関先にあるブラシで服の砂ぼこりを払います。
身についた良い習慣は大きくなっても邪魔になることはありません。

日常生活を丁寧に過ごすことを何より大切にしています。
